

教員名	岩壁 茂 (IWAKABE Shigeru)
所 属	人間文化研究科人間発達科学専攻発達基礎論講座
学 位	
職 名	助教授
URL / E-mail	http://www.develop.ocha.ac.jp/iwakabe.html / iwakabe@cc.ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

心理療法研究 / 治療的失敗 / 心理療法統合 / 感情 /  
 カウンセラー・セラピストの職業的成長と訓練

## ◆主要業績

総数 ( 7 ) 件

- Greenberg, L. S., Rice, L. N., & Elliott, R. K. (1996). Facilitating emotional change: The moment-by-moment process. New York, NY, US: Guilford Press.  
 感情に働きかける面接技法—統合的アプローチ 岩壁茂 (訳) 誠信書房 2006
- 金沢吉展・岩壁茂 (2006) 心理臨床家の専門家としての発達、および、職業的ストレスへの対処について：文献研究 明治学院大学心理学部附属研究所紀要, 4, 57-73.
- 岩壁茂. (2007): 効果研究の観点からみた心理療法の統合. 精神療法, 33, 6-14.
- 金沢吉展・岩壁茂(2006). 心理臨床家の職業的発達に関する調査から  
 — 臨床家としての自己評価に影響を与える要因について. 日本心理臨床学会大会論文集.
- 岩壁茂 (2006) 海外文献紹介「Tessman LH “The Analyst’s Analyst Within 治療者のうちなる治療者」.  
 臨床心理学, 36, 566-568.

## ◆研究内容

3つの領域における研究を進めた。一つは、臨床家の成長と訓練に関する調査であり、インタビュー調査を行い、臨床家としての成長とかかわる体験について質的方法を使って検討した。また、これまで20カ国においてデータが集められている「心理臨床家の成長」の調査票を用いて日本の臨床家からデータを集めた。次に、心理療法における治療的失敗の研究である。臨床家に対するインタビュー調査、文献のレビュー、自らの臨床経験およびスーパービジョンおよび実習などの教育経験から、治療的失敗について1冊の本にまとめた。最後に質的研究法の方法論的問題と臨床心理学における応用についてである。対人的援助を基本とする臨床心理学においてインタビューという協力者と密接に関わるデータ収集の方法を用いて意味生成の過程に着目する質的研究法の役割は大きい。また、臨床心理学における対人的関わりの手法や対人理解の理論は、質的方法をさらに発展させるためにきわめて重要である。

## ◆教育内容

学部の授業は、6科目を担当した。「カウンセリング論」では理論的な知識が実際の臨床場面においてどのように使われているのかということを受講生がよりはっきりとつかめるように、カウンセリングのビデオ視聴を取り入れ、一つ一つの介入やクライアントの変化についての解説を加えた。また、授業の感想や質問をメールで受け付けて授業で扱い教員と学生の理解のズレが起こらないように気をつけた。

大学院では、「臨床心理学特論 (実践)」「臨床心理学基礎実習 (前期)」「発達臨床心理学研究法」を担当した。「臨床心理学基礎実習」では臨床家としての職業的成長の視点を取り入れ、自己洞察、内省を深めながら、技法の修得を促進することを強調した。継続的なロールプレイとビデオを使ったグループスーパービジョンを取り入れることによって介入プロセスに関する細かな指導を行うように心がけた。「発達臨床心理学研究法」では具体的な研究事例をとりあげ、グループディスカッションを行うことによって学生が積極的な取り組みができるよう心がけた。

## ◆Research Pursuits

---

During the school year of 2006 to 2007, I have conducted research in the following three areas. The first area of focus was on professional development and training of psychotherapists. Therapists' subjective experience of professional and personal "growth" were examined through interviews with therapists of differing levels of clinical experience. Using the Questionnaire (DPCCQ), with which the data had been gathered from psychotherapists of more than 20 countries, my colleagues and I have collected the data from the Japanese sample. The second research focus was on therapeutic failures and therapeutic impasses. I have conducted informal interviews with clinicians after reviewing both clinical and empirical literature on problems in the process of psychotherapy such as negative effects, impasses, and dropouts. Synthesizing these with my own clinical experience of conducting psychotherapy and supervising trainees, I have finished a book manuscript called "Coping with therapeutic failures" which is currently under revision.

Finally, I have been working on the methodological issues related to applying qualitative methods, particularly of grounded theory approach, to research in clinical psychology. The third focus of my research is centred on the possible avenues of synergic integration of these two.

## ◆Educational Pursuits

---

I taught 6 undergraduate courses and 4 graduate courses in this academic year. In the undergraduate course, Counselling theories, I have used videotaped counselling sessions to illustrate how theoretical concepts are used in actual clinical situations so that students have firm grasp of the learning materials. I have also accepted e-mail questions from students, which were discussed in the following class to review the materials and to monitor the learning process.

In graduate courses, I encouraged students to see their learning process not simply that of acquiring counselling skills but also of professional and personal growth by engaging them in activities that facilitate self-reflection and understanding to monitor whether their conceptual learning was integrated and translated into actual demonstrated skills. Students conducted a series of role-playing, which were videotaped and reviewed in a group supervision format. In "Research methods in clinical psychology," I have presented with specific research questions and asked students to design studies defining the sampling method, the sample size, instruments, and procedures. Group discussions comparing and contrasting pros and cons of different research designs were included to facilitate active participation and conceptual exercise of students who were clinically oriented with limited interest and knowledge of conducting psychological research.

## ◆共同研究例

---

心理臨床家の職業的成長と訓練

## ◆共同研究可能テーマ

---

・心理療法プロセス研究 ・恥、罪悪感などの対人感情と心理的健康 ・産業心理臨床 ー 特に離職問題

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

臨床家の成長と訓練および治療的失敗の二つの研究を進めるうちに、セラピストの恥と自己愛の傷つきをどのように扱うかということにテーマが収斂されつつある。治療的失敗の主要な原因の一つでもある共感の失敗やズレ、負の相互作用などにおいて、セラピストが内的な恥の体験を回避することが関係していることが示唆された。また、臨床家の成長の契機には、失敗や恥の体験をどのようにして扱い、自己理解を深めるのかということに関わっていた。本年度は、恥を中心にさらにこの二つの領域の研究を進めていきたい。

## ◆受験生等へのメッセージ

---

私の研究のテーマは、「人はどのように変わるのか」「どうやってそのプロセスを促進できるのか」ということです。カウンセリングで人は自分の問題を解決したり、心理的に「成長」を感じたりします。そのような瞬間がどのようにして起こるのか、様々な方法を使って研究していきます。また、そのようなプロセスを促進するための援助のあり方について学びます。

カウンセリング心理学では、知識や技法を正確に学ぶだけでなく、それらを使って自分について振り返り、自分の中に統合していくというプロセスが大切になります。そのために、授業はいろいろな考えや感じ方などを試す実験の場にもなります。

このようなテーマについて学生の皆さんと一緒に追及していきたいと願っております。